

環境調査結果のお知らせ

概況

令和6年11月19日に環境調査を行いましたので、結果を送付いたします。

検鏡の結果、赤潮原因プランクトンであるメソディニウム・ルブラムが最大1細胞/mL確認されました。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

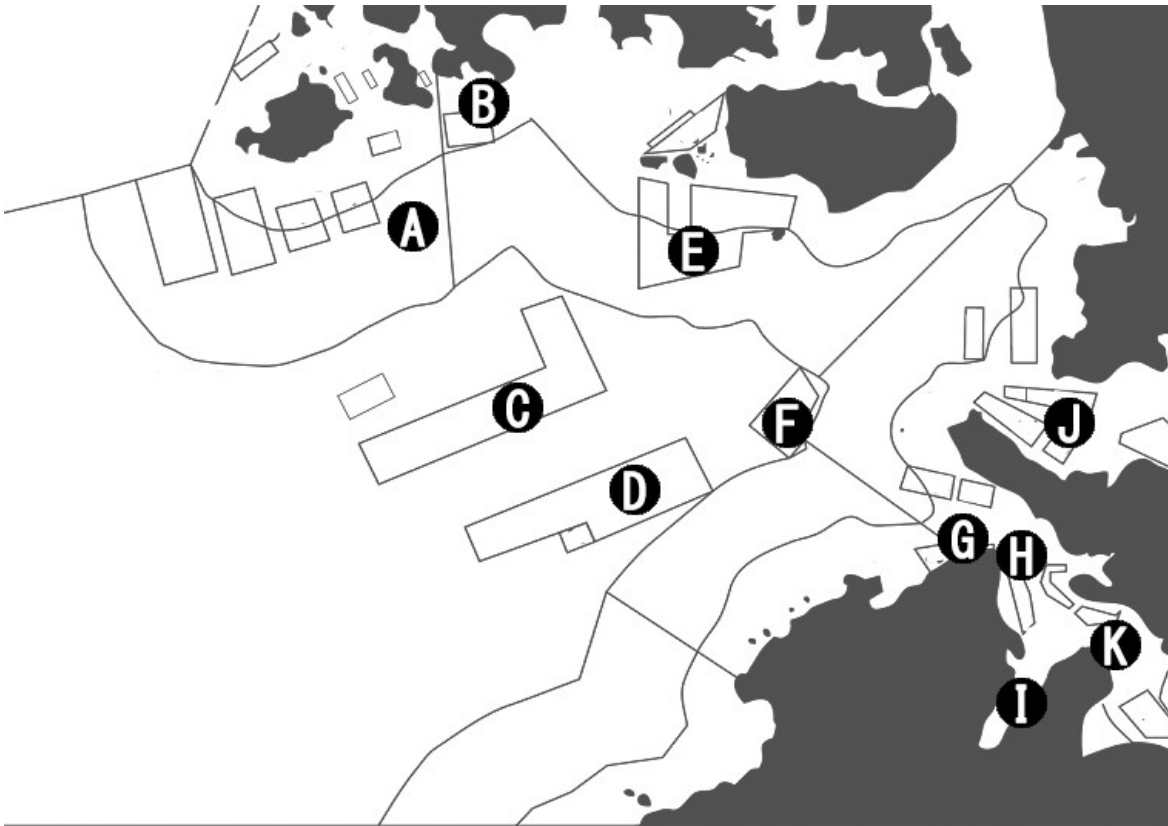
調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	メソディニウム・ ルブラム
A 藻津 (12.7m/36.9m) 【09:36】	0	24.3	34.2	6.3	0	0
	★ 5	24.4	34.3	6.3	0	0
	10	24.4	34.3	6.3	0	0
	15	24.4	34.3	6.1	-	-
	20	24.4	34.3	6.1	-	-
B 宇須々木 (13m/25.3m) 【09:29】	0	23.4	33.7	6.6	0	0
	5	24.0	34.1	6.4	0	0
	★ 10	24.2	34.2	6.2	0	0
	15	24.2	34.2	6.1	-	-
	20	24.2	34.2	6.1	-	-
C 大島中央 (12.5m/33.1m) 【09:48】	0	23.9	33.8	6.5	0	0
	★ 5	24.2	34.1	6.4	0	0
	10	24.5	34.3	6.4	0	1
	15	24.6	34.3	6.4	-	-
	20	24.5	34.3	6.4	-	-
D 小筑紫中央 (13m/49.3m) 【10:01】	0	24.4	34.2	6.2	0	0
	5	24.5	34.3	6.2	0	0
	★ 10	24.5	34.3	6.2	0	0
	15	24.5	34.3	6.2	-	-
	20	24.5	34.3	6.3	-	-
E 真珠 (12.5m/33m) 【09:11】	0	24.1	34.0	6.6	0	0
	5	24.2	34.1	6.5	0	0
	★ 7	24.2	34.1	6.5	0	0
	10	24.2	34.1	6.5	0	0
	15	24.4	34.2	6.4	-	-
F シラハエ (9.5m/38.3m) 【10:20】	0	23.8	33.8	6.8	0	0
	★ 5	24.2	34.2	6.5	0	0
	10	24.5	34.3	6.4	0	0
	15	24.5	34.3	6.0	-	-
	20	24.5	34.3	6.2	-	-
G 立石 (9.2m/24m) 【10:30】	★ 0	22.8	33.2	7.5	0	0
	5	24.5	34.2	6.5	0	0
	10	24.4	34.2	6.5	0	0
	15	24.4	34.2	6.4	-	-
	20	24.4	34.2	6.2	-	-

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	クロロディニウム・ ポリクリコイデス	メソディニウム・ ルブラム
H 一切田 (5.5m/22.2m) 【11:03】	0	23.2	33.3	8.1	0	1
	★ 3	23.8	33.8	7.4	0	0
	5	24.0	33.9	7.1	0	0
	10	24.5	34.2	6.3	0	0
	15	24.6	34.3	6.2	-	-
	20	24.5	34.3	6.3	-	-
I 栄喜奥 (5.5m/14.7m) 【10:44】	0	21.5	32.4	7.7	0	0
	★ 3	23.6	33.7	7.3	0	0
	5	24.3	34.1	6.4	0	0
	10	24.6	34.3	6.3	0	0
J ヒロウラ (9m/25.5m) 【11:14】	0	21.5	31.5	6.9	0	0
	5	24.3	34.1	5.8	0	0
	★ 10	24.3	34.2	6.1	0	0
	15	24.4	34.2	6.3	-	-
	20	24.4	34.2	6.3	-	-
K 青瀬山 (7m/17.1m) 【10:54】	0	23.8	33.6	7.3	0	0
	★ 5	24.4	34.1	6.3	0	0
	10	24.6	34.3	6.3	0	0
	15	24.6	34.3	6.2	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL : <https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津 E: 真珠 I: 栄喜奥
 B: 宇須々木 F: シラハエ J: ヒロウラ
 C: 大島中央 G: 立石 K: 青瀬山
 D: 小筑紫中央 H: 一切田

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。